

■田原市自転車活用推進計画のフォローアップ(観光部会)

目標2 サイクルツーリズムの促進による地域活性化

赤字：期間中に整理された取組による修正等

青字：今回の中間見直しにおける追加施策

資料2

施 策	現在の取組	措置の実施者	措置	指標	取組状況	2022年度までの取組詳細	2022年度までの課題	2023年度以降に実施予定の取組詳細	
施策2-1. 太平洋岸自転車道の活用推進									
① 太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート指定推進協議会への参画・連携									
・ 関係機関との連携、受入環境整備、情報発信、魅力づくり	【愛知県】太平洋岸自転車道における案内看板等環境整備各関係機関との連携	【愛知県】 【田原市】	・（継続）太平洋岸自転車道における案内看板等環境整備（愛知県）、各関係機関との連携	—	継続	太平洋岸自転車道PR看板を設置 蔵王山麓（2021）、道の駅田原めっくんハウス（2022）		継続	
	・ 市内サイクリングルートとの接続・連携により回遊性を高め観光地等との連携	【観光課】 【環境政策課】道の駅等へのレンタサイクルの設置・情報発信	・（継続）道の駅等へのレンタサイクルの設置・情報発信	①レンタサイクル設置〔2020年度〕	継続	・ レンタサイクル協議会、道の駅あかばねロコステーション、道の駅伊良湖クリスタルポルトにてレンタサイクルを継続。 ・ 貸出場所にて、サイクリングルートを紹介した。	市と観光ビューローの連携を推進する必要がある。	継続	
			・（新規）田原めっくんはうすへレンタサイクルの設置、市内観光地との回遊性を高める方策検討	②方策決定〔2020年度〕	継続	・ 2020年度、道の駅田原めっくんはうすにてレンタサイクルを開始し継続。 ・ 太平洋岸自転車道のサイクルステーション・ゲートウェイに道の駅を設定。太平洋岸自転車道を活用した道の駅等観光スポットと体験プログラムを結ぶスタンプラリーを開催する等、回遊性の向上を図った。	市と観光ビューローの連携を推進する必要がある。	・ 伊良湖クリスタルポルト観光案内所にて、観光地周遊コース等の紹介や乗り捨てシステム導入を検討。	
	・ ナショナルサイクルルート指定後、沿線県・市町村等とのサイクリング交流を推進する	【企画課】 ・ 和歌山市が「太平洋岸自転車道繋いじゃえプロジェクト」で全線走破企画を2022年度から実施。田原市区間通過時には、交流応援を実施。 【観光課】 【観光ビューロー】	・（NCR指定後）太平洋岸自転車道の沿線県・市町村等とのサイクリング交流を推進する	・ サイクリングによる交流市町村数		・ 和歌山市が「太平洋岸自転車道繋いじゃえプロジェクト」で全線走破企画を2022年度から実施。田原市区間通過時には、交流応援を実施。	・ 事業主体が未確定	・ 2023.5和歌山市が「太平洋岸自転車道繋いじゃえプロジェクト」でタンデム自転車による全線走破企画実施で田原市区間通過時に交流応援を実施。	
				・ サイクリングによる交流ルート数		・ 太平洋岸自転車道NCRに関する日本風景街道7ルートによる『太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート 中部・日本風景街道連絡会』を設立し、NCRへの接続ルートや引込みルートの設定を行った。	・ 太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート中部・日本風景街道連絡会で設定したルートの活用にあたっては、自転車活用を推進する部署との連携が必要になる。	・ 沿線風景街道との具体的なサイクリング交流会を推進する。 ・ 2024.2日本風景街道大学in田原キャンパスにおいて、サイクリングエクスカーションを実施。	
	② 地域振興への誘導・市民生活質向上への寄与								
・（再掲） ・ 市内サイクリングルートとの接続により回遊性を高め観光地等との連携	【観光課】道の駅等へのレンタサイクルの設置・情報発信	【観光課】	・ 同上	・ 同上	継続	同上		同上	
	・ 幅広い世代が楽しむことができるよう、市民向けの周知等、活用方策の検討	【環境政策課】まちなかレンタサイクルの活用	【環境政策課】	・（継続）道の駅等へのレンタサイクルの設置・情報発信・まちなかレンタサイクルの活用、各関係機関との継続的な連携 ・（新規）広報たはらの周知、まちなかレンタサイクル・LaLaチャリの利用率の向上	①定期的な情報発信〔2020年度〕 ②レンタサイクルの利用人数	継続	・ 市内5か所（セントファール、三河田原駅、田原市役所、田原福祉センター、田原文化会館）で、リサイクル（廃棄）自転車を活用した、まちなかレンタサイクルを実施。 ・ 公共交通ガイドブック等に利用案内を掲載し、バス・電車の利用と連携し、ラストワンマイルの移動手段として自転車活用をPR。	・ 外国人技能実習生の利用が多く、貸出時間等の利用規約を守らない利用者がいたため、利用案内の多言語対応が必要。	継続 ・ 外国人技能実習生向けに、多言語対応（日本語、中国語、クメール語、ベトナム語、英語、インドネシア語）の利用案内を貸出窓口に提供し、貸出自転車にも掲示。
			【観光課】		継続	・ 交流ひろばにレンタサイクルPRポスターを掲示する等、情報発信を実施。 ・ 2020年度から、LaLaチャリはコロナ禍及びレンタサイクル取り扱いテナント撤退等の理由により休止中。	・ レンタサイクル取り扱い店舗の経営状況により、事業の運用が不安定であった。	・ LaLaチャリのララグラン別テナントでの再開を調整。	
施策2-2. 地域資源をつなぐ魅力あるサイクリングルートの活用									
① 安全で魅力あるルート設定									
・ サイクルシップ、サイクルトレイン等、地域環境を活かしたルートを活用	【伊勢湾フェリー】伊勢湾フェリーでのサイクルシップの活用	【伊勢湾フェリー】	・（継続）伊勢湾フェリーでのサイクルシップの活用	・ ルート提案〔2020年度〕	継続	・ サイクルシップ乗船キャンペーン等を実施。	・ 航路を使ったサイクリングルートの魅力をアピールする必要がある。	継続	
		【観光課】	・（新規）サイクルシップを活用した新たなルート設定		継続	・ 上記キャンペーン等のPRに協力。新たなルートは検討中。	・ ルート作成のため、鳥羽市等との連携が必要である。	関係団体との連携強化	
	【豊橋鉄道】豊橋鉄道でのサイクルトレインの活用	【豊橋鉄道】	・（継続）豊橋鉄道でのサイクルトレインの活用	・ ルート提案〔2020年度〕	継続	・ サイクルトレインの実施 ・ ホームページにてサイクリングコースを掲載	・ 電車を使ったサイクリングルートの魅力をアピールする必要がある。	継続	
		【観光課】	・（新規）サイクルトレインを活用した新たなルート設定		継続	・ 新たなルートを検討	・ ルート作成のため、豊橋市等との連携が必要である。 ・ 電車を使ったサイクリングルートの魅力をアピールする必要がある。	・ 2023年度、豊橋市が実施する、サイクルトレインを活用したイベントとの連携を機会とし、新たなルートを検討。 ・ 利用者数の継続確認をおこない、新たに検討するサイクルバス等との連携などの改善を検討する	
	【街づくり推進課】「渥美半島菜の花浪漫街道」との連携	【街づくり推進課】	・（継続）日本風景街道「渥美半島菜の花浪漫街道」との連携 ・（新規）渥美半島菜の花浪漫街道を活用したルート設定	・ ルート提案〔2020年度〕 ・ サイクリングによる交流ルート数	継続	（再掲）令和3年度に太平洋岸自転車道NCRに関する日本風景街道7ルートによる『太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート 中部・日本風景街道連絡会』を設立し、NCRへの接続ルートや引込みルートの設定を行った。	（再掲）太平洋岸自転車道ナショナルサイクルルート 中部・日本風景街道連絡会で設定したルートの活用にあたっては、自転車活用を推進する部署との連携が必要になる。	継続 （再掲） ・ 沿線風景街道との具体的なサイクリング交流会を推進する。 ・ 2024.2日本風景街道大学in田原キャンパスにおいて、サイクリングエクスカーションを実施。	
		【観光課】			継続	・ 上記ルート提案の協議に参加。	同上	同上	
	・ 渥美半島1周サイクリングルートの充実化を図り、必要に応じて見直しを行う	【スポーツ課】渥美半島1周サイクリングルートの設定、見直し	【スポーツ課】	・（継続）渥美半島1周サイクリングルートの設定、見直し ・（新規）渥美半島1周サイクリングルートの充実化	・ ルート提案〔2020年度〕	継続	・ 現ルートにおける課題の抽出、提案、調整の実施	・ 地域住民などから苦情の無いよう、マナーの周知徹底の必要がある。	継続
			【観光課】			継続	充実化のため、たはら巡り～なを活用して渥美半島サイクリングルートのサブルートを設定。 ・ 2020年度、歴史サイクリング体験を掲載。 ・ 2021年度、体験プログラムを巡るサイクル体験を掲載。 ・ 2022年度、家康サイクリング体験を掲載。	・ 参加者数が他のプログラムに比べて多くない。	・ 魅力あるサイクリング体験等を造成し、継続掲載。

施 策		現在の取組	措置の実施者	措置	指標	取組状況	2022年度までの取組詳細	2022年度までの課題	2023年度以降に実施予定の取組詳細
② 周辺自治体との連携									
・地域資源をつなぐサイクルツーリズムによる連携促進	【スポーツ課】サイクルマップに鳥羽ルートの掲載	【観光課】	・（継続）サイクルマップに鳥羽ルートの掲載 ・（新規）鳥羽市、豊橋市、湖西市、浜松市等との連携促進 ・（新規）「東三河スポーツツーリズム」を東三河一体となり力強く推進	・連携イベントの開催〔2020年度〕 ・田原市まち・ひと・しごと創生連携会議において KPI達成及び事業見直しの意見聴取	継続	・サイクルマップに鳥羽ルートの掲載を継続 ・2020年度、豊橋・田原・湖西道の駅サイクリングスタンプラリーを実施 ・東三河スポーツツーリズム会議（ジャパンエコトラック）等に参画。	・広域での連携をさらに進める必要がある。 ・インバウンド誘致のための多言語マップ（紙版＋データ版）	・国内観光活性化フォーラムinあいちでサイクリングコース等を豊橋市と共同でPR ・観光デジタルマップにサイクリングルート掲載、多言語化対応（再掲） ・2023年度、豊橋市が実施する、サイクルトレインを活用したイベントとの連携を機会とし、新たなルートを検討。	
		【企画課】							継続
	・三遠南信地域連携ビジョンにおけるサイクルツーリズムの推進に向けた地域連携（インバウンド獲得に向けたサイクルツーリズムの推進）	【企画課】「塩の道サイクルツーリズム」などの県境を越えたサイクルツーリズムの推進に向けた検討・関係機関との連携構築 【街づくり推進課】 サイクルバス導入の検討・調整	【企画課】 【観光課】 【街づくり推進課】	・第2次三遠南信地域連携ビジョン4三遠南信探訪プロジェクトにおける「塩の道サイクルツーリズム」などの県境を越えたサイクルツーリズムの推進		検討	・東三河地域をつなぐ、サイクルトレイン（JR飯田線）・サイクルバス（豊鉄バス 三河田原～伊良湖間）の交通インフラ形成が不足。 ・インバウンド獲得に向けた長期滞在型のサイクルツーリズムの形成に向けて、東三河が一体となって取り組む体制整備と、隣接県である三遠南信地域で連携したサイクルツーリズムの推進が課題 ・東三河内の「塩の道」ルート設定の検討が必要	・2023年度、「塩の道」を活用したサイクルツーリズム形成のための研修会等に職員が参加。 ・東三河地域におけるインバウンド獲得に向けた「塩の道」サイクルツーリズム活用の組織形成の検討開始 ・それぞれの地域を案内するガイド事業支援の検討 ・大学と連携したルート形成検討 ・三遠南信地域の隣接県と連携したサイクルルートの構築と、具体的なサイクルツーリズムプランの試行	
③ ルートにおける走行環境整備									
・既存の設定ルート路面表示を必要に応じて充実や更新を図る	【建設課】渥美半島1周ルートにおける路面表示の設置	【建設課】	・（継続）渥美半島1周ルートにおける路面表示の設置 ・（新規）ガイドラインに則した自転車ネットワーク計画整備	・自転車ネットワーク整備〔2027年度〕	継続	渥美半島一周ルートを先行して整備 令和4年度までの整備率約17％	渥美半島一周ルートの整備後、中学校周辺から順に整備をしていくが、当時のルート選定が、現在の中学生の通学路として利用しているか分からない。また、整備における優先順位がない。	令和5年度渥美半島一周ルート整備完了予定 令和5年度までの整備率約22％予定。現状の計画について、中学生の通学路の調査を行い、必要に応じてルートの追加及び削除を行う。優先順位に関しては、通学路を使う自転車利用者の人数を参考に、多い順で整備をしていく。	
施策2-3. サイクリストのニーズに対応した受入環境の整備 → 世界に誇り、広く利用されるサイクリング受入環境の整備									
① 多様な交通手段に対応した受入れ環境整備									
（視点）多様な交通手段との接続 ・駐車場を有する道の駅、鉄道駅である三河田原駅、伊良湖ターミナル周辺	【観光課】 NCRゲートウェイ整備に基づく機能整備（3道の駅、三河田原駅）重点道の駅制度における受入環境整備、情報発信の強化	【観光課】	・（継続）3道の駅・三河田原駅をNCRゲートウェイ整備に基づく機能整備、重点道の駅制度における受入環境整備・情報発信の強化	・NCRゲートウェイ整備要件を満たす〔2020年度〕	継続	■機能整備 【3道の駅】サイクルラック、ロッカー、着替えスペース設置。修理キット、輪行袋貸出。 【三河田原駅】サイクルラック、ロッカー設置。	・シャワー等推奨する機能の整備をする必要がある。	必要な機能の整備のほか、利用率向上を図る。	
						■受入環境整備・情報発信 【3道の駅】レンタサイクル、情報発信実施。携行食等販売。 【三河田原駅】レンタサイクル、情報発信実施。	三河田原駅での携行食の販売はできていない。	三河田原駅での販売方法の検討及びラグララン等と連携の検討。	
② いつでも休憩できる環境の整備									
（視点）休憩、メンテナンスできる環境 ・公共施設の活用や、民間事業者と連携し一定間隔でサイクリストに必要な機能を有した休憩施設（サイクルステーション等）を整備・充実	【スポーツ課】【観光課】 公共施設へのサイクルラック設置、工具・空気入れ等の貸出	【観光課】	・（継続）公共施設へサイクルラック等設置、工具・空気入れ等の貸出・（新規）「（仮称）田原市サイクルサポーター制度」により市内事業者を公募し、サイクルラック等、工具・空気入れ等の貸出。協力店舗において観光パンフレットやサイクリングマップを設置提供し、簡易な観光案内の実施。	・サイクルサポーターを8件認定〔2020年度〕 ・ サイクルサポーター店舗立寄り延べ人数	達成	・2020年度、渥美半島サイクルサポーター制度を開始。 ・2022年度未現在、民間41事業所を認定。（公共施設は7施設） ・2020年度に田原ロータリークラブ寄贈により、ステンレス製のサイクルラックを田原駅前等に15基設置 ・ R2：1,510人、R3：3,480人、R4：4,300人		・2023年度8月末現在、民間45事業所を認定。（公共施設は7施設） 各地域で十分な施設数になったと思われるため、新規募集は予定なし。	
③ サイクリストが安心して滞在可能な環境									
（視点）既存の宿泊施設の活用 ・自転車の持込み、洗濯、サイクリスト向けプラン等	【観光課】 宿泊施設へのサイクリスト対応調査及び協力依頼の実施	【観光課】 【観光ビューロー】	・（継続）宿泊施設へのサイクリスト対応調査及び協力依頼の実施 ・（新規）宿泊施設のサイクリスト向けプラン等の検討、宿泊施設の受入環境充実の啓発	・サイクリスト受入対応可宿泊施設を10件以上〔2020年度〕	継続	・2022年度、サイクルサポーターとして13施設で受入れ可、うち8施設でサイクリストが宿泊した際に特典あり。 ・ジャパンエコトラックにサイクリスト受入宿泊施設として3施設掲載。	・サイクリストのニーズに合わせた宿泊プランの造成等、地域DMO等との連携が必要である。	・サイクリストのニーズに合った宿泊施設の確保に向け、関係者と連携し、拡大に向けた検討を実施。（宿泊部屋等、屋内への自転車持ち込み等） ・民間旅行事業者がサイクリング宿泊プランを造成。	
	（視点）車中泊環境の整備、日帰り駐車可能な駐車場環境整備 ・道の駅やキャンプ場での対応可能か		【観光課】 道の駅等の公共施設駐車場での車中泊対応検討	・（継続）道の駅等の公共施設駐車場での車中泊対応検討 ・（新規）道の駅（指定駐車場外の活用）や公園・公共駐車場等、公共施設、キャンプ場での対応検討	・サイクリスト対応駐車場認定〔2020年度〕	継続	・3道の駅駐車場にて日帰り駐車受入。 ・道の駅（指定駐車場外の活用）や公園・公共駐車場等、公共施設、キャンプ場での対応については検討中。	・車中泊や道の駅以外での駐車受入のニーズが把握できていない。	・車中泊対応について検討。 ・道の駅以外の駐車受入についてニーズ等を調査し、必要性を検討。
	訪日外国人を考慮したわかりやすい案内、ルール周知等受入環境整備の検討		【建設課】 【観光課】	・訪日外国人を考慮したわかりやすい案内、ルール周知等受入環境整備の検討	道の駅における外国人サイクリストの人数				・外国語標記の看板等の整備

施 策		現在の取組	措置の実施者	措置	指標	取組状況	2022年度までの取組詳細	2022年度までの課題	2023年度以降に実施予定の取組詳細
④ 自転車のトラブルや緊急時の対応環境									
	（視点）サイクリング中のトラブル対応 ・一定の間隔でのメンテナンス拠点の確保	【観光課】道の駅等での工具・空気入れ等の貸出	【観光課】	・（継続）道の駅等での工具・空気入れ等の貸出 ・（新規）公共施設、民間施設等での工具・空気入れ等の貸出	・貸出施設を10件以上〔2020 年度〕	達成	【再掲】 ・2020年度、渥美半島サイクルサポーター制度を開始。 ・2022年度末現在、民間41事業所を認定。（公共施設は7施設）		2023年度、民間45事業所で貸出。
	・メンテナンス拠点まで自転車等を搬送する手段やサービスを検討	未対応	【街づくり推進課】	・（新規）自転車等を搬送する手段やサービスの検討を実施	・手段提案〔2020 年度〕	継続	路線バス伊良湖支線において、サイクルラックバスの導入を検討した。	市内の公共交通機関では豊橋鉄道渥美線のサイクルトレインと伊勢湾フェリーのサイクルシップが運行されているが、サイクリストの受入環境の整備に向けて、路線バスについても自転車を運搬できる環境を整備する必要がある。	継続検討
			【観光課】			達成	・2022年度太平洋岸自転車道愛知県ルートアクションプランにおいて、「トラブル発生時（24時間365日）に利用できる（民間）自転車ロードサービス提供範囲であることを確認」、県アクションプランにおいて達成となったため、本市も「達成」とする。		達成
	・トラブル等の際の代替移動手段として公共交通機関の活用、道の駅等での対応を検討	未対応	【街づくり推進課】	・（新規）トラブル時の代替移動手段として公共交通機関の活用、道の駅等での対応を検討	・手段提案〔2020 年度〕	継続	路線バス伊良湖支線において、サイクルラックバスの導入を検討した。	市内の公共交通機関では豊橋鉄道渥美線のサイクルトレインと伊勢湾フェリーのサイクルシップが運行されているが、サイクリストの受入環境の整備に向けて、路線バスについても自転車を運搬できる環境を整備する必要がある。	継続検討
			【観光課】			達成	（再掲） ・2022年度太平洋岸自転車道愛知県ルートアクションプランにおいて、「トラブル発生時（24時間365日）に利用できる（民間）自転車ロードサービス提供範囲であることを確認」、県アクションプランにおいて達成となったため、本市も「達成」とする。 ・トラブル発生時のレスキュー部隊として、ボランティア団体「サツキボタン」が発足した。		達成
	（視点）災害時等対応 ・緊急時の連絡やサポート可能な施設情報等情報提供がなされていること	【スポーツ課】サイクルマップ等への連絡方法等の記載	【スポーツ課】 【観光課】	・（継続）サイクルマップや防災マップへの避難方法等の記載	—	継続	・観光マップなどに掲載が出来るように調整をする。		デジタルマップに掲載予定
	・津波等発生時の避難方法等、マップ及びホームページなどに記載、周知	【防災対策課】防災マップへの避難方法等の記載	【スポーツ課】 【観光課】	・（継続）サイクルマップや防災マップへの避難方法等の記載	—	継続	同上		同上
施策2-4. サイクリストの各場面に応じた情報発信									
① サイクリストが必要な情報の提供									
	（視点）情報発信内容 ・ルート、立寄りスポット、サイクリスト向けサービス等		【観光課】 【観光ビューロー】	・（新規）より分かりやすい情報内容の検討	—	継続	・サイクルサポーターパンフレットを作成。またパンフレットからスマホに取り込むことができるグーグルマップに店舗及び太平洋岸自転車道を掲載。	・サイクルサポーター利用率が少なかった。⇒スマホに取り込むことができるグーグルマップを開始したところ、問い合わせ等が増えた。	・観光デジタルマップにサイクルサポーター店舗、サイクリングルートに掲載。
			【スポーツ課】			継続	・サイクルコースの状況の情報を提供。	・市以外の期間	・引き続き予算の確保に努める。
	（視点）情報発信方法 ・ホームページ、パンフレット、メディアPR、インバウンド対応等 ・ 情報通信技術の活用の推進	【観光課】【スポーツ課】【観光ビューロー】サイクルマップへの情報掲載渥美半島観光ビューローホームページへの情報掲載各種webサイトへの情報掲載道の駅観光案内所のJ N T O登録	【観光課】 【スポーツ課】 【広報秘書課】 【観光ビューロー】	・（継続）サイクルマップへの情報掲載 ／ 渥美半島観光ビューローホームページへの情報掲載 各種Webサイトへの情報掲載 ／ 道の駅観光案内所のJ N T O登録 ・（新規）広報たはらでの連載、特集地元サイクリスト発信による効果的なSNSの活用 ／ 多言語情報発信の充実	①隔月で広報へ掲載〔2020年度〕 ②地元サイクリストの選定〔2020年度〕 ③サイクルマップ多言語化〔2021年度〕	継続	・TABIRINに渥美半島サイクルルート詳細を掲載。渥美半島観光ビューローホームページにも特集ページを掲載。 ・2020年度、広報たはらにて「はしってみ輪（りん）渥美半島」連載で2回掲載。 ・伊良湖トライアスロン等大会公式カメラマンや愛好家がSNSでバイクのシーンをSNS発信。	・その他チャンネルを用意し、さらにPRを進める必要がある。 ・広報たはら紙面の都合により2回の連載で終了となった。	（再掲） ・観光デジタルマップにサイクルサポーター店舗、サイクリングルートに掲載。 ・広報紙での連載再開やSNSでの発信を検討。 ・観光デジタルマップに掲載するサイクリング関連情報は多言語対応可。 ・アイアンマン70.3東三河ジャパンin渥美半島（2023 第1回）で台湾You-Tuber輪さんを誘致（観光ビューロー）し、SNS発信。その他参加者から渥美半島のコースのすばらしさがYou-Tubeで多数発信された（確認できただけでも20件以上）
② 携帯可能で分かり易いルートマップの作成									
	・既存のルートマップを更新・充実、多言語化、スマホでの閲覧等	【スポーツ課】新マップの作成に応じて検討	【スポーツ課】	・（継続）新マップの作成に応じて検討中 ・（新規）マップの記載内容、スマホでの活用を踏まえた機能拡充	・WEB版サイクルマップ検討〔2020年度〕	継続	・2023年度に観光デジタルマップへの掲載を調整。	・データーベースのみで、紙ベースの予算が確保出	（再掲） ・観光デジタルマップにサイクルサポーター店舗、サイクリングルートに掲載。

施 策		現在の取組	措置の実施者	措置	指標	取組状況	2022年度までの取組詳細	2022年度までの課題	2023年度以降に実施予定の取組詳細
施策2-5. サイクリストと民間をつなぐ仕組みづくり									
① 官民連携によるサイクリング環境の水準維持等の継続的な取組体制の整備									
	(視点) 検討体制の整備 ・官民が連携し一体的に意見交換する場を設け、定期的開催	【観光課】自転車活用推進協議会観光部会においての意見聴取	【観光課】	・(継続) 田原市自転車活用推進協議会観光部会においての意見聴取 ・(新規) 官民が連携した道路環境等の維持、管理体制の構築	・官民連携体制の構築〔2020年度〕	継続	・田原市自転車活用推進協議会観光部会においての意見聴取はコロナ禍等の影響により未実施 ・2022年度、公用車のドライブレコーダーデータを活用し民間会社がAIにより道路状況を分析。その結果を基にナショナルサイクルルートを含む道路の補修の実施を検討。	・夏場の雑草が処理しきれていない。	継続 ・雑草等の対応については、県との連携を強化する。
② サイクリングツアー開催等による地域活性化への誘導									
(視点) 地域消費につなげる ・サイクリングイベントの活用		【スポーツ課】サイクルイベントへの後援、協力、支援	【スポーツ課】	・(継続) サイクルイベントへの後援・協力 ・(新規) サイクルイベントの開催支援		継続	・自転車を活用した大会の実施及び助成・支援。 (伊良湖トライアスロン、オフロードトライアスロン、ぐる輪サイクリング) ※ 2021, 2022の伊良湖トライアスロンは新型コロナウイルス感染防止のため中止。	・参加者が定員に達していない。(コロナの影響や他の大会へ切替したなどの理由が考えられる。)	・アイアンマン70.3東三河ジャパンin渥美半島(2023 第1回)の助成 ・実行委員会への参画と運営支援。 ・アイアンマン70.3東三河ジャパンin渥美半島(2024 第2回)の助成 ・実行委員会への参画と運営支援、地域活性化に向けたイベントの活用(調整中)
		【観光課】サイクルイベントでの情報発信・プロモーション	【観光課】	・サイクルイベントでの情報発信	・サイクルイベントで3回以上出展〔2020年度〕	継続	(情報発信) ・2020年度、オフロードトライアスロンin田原の渥美半島菜の花浪漫街道ブースでサイクリングコース等をPR ・2022年度、あいち市町村フェア(ジブリパーク)の東三河合同アウトドアブースでサイクリングコース等をPR (イベント開催支援) ・2021年度、2022年度、GOGOサイクルスタンプラリーへ補助金交付及び後援 ・愛知県サイクリング協会による「ツール・ド・あいち「ロングライド渥美半島」開催(2017～毎年)	PR効果の高いイベントへの出展を検討する必要がある。	2023年度 ・アイアンマン70.3東三河ジャパンin渥美半島でサイクリングコース等をPR ・Mountain Port Discoveryの東三河ブースでサイクリング体験プログラム等をPR ・DESTINATION AICHIでサイクリングコース等をPR(再掲) ・国内観光活性化フォーラムinあいちでサイクリングコース等を豊橋市と共同でPR ・愛知県サイクリング協会による「ツール・ド・あいち「ロングライド渥美半島」でのPRの実施、支援
	【観光課】「たはら巡り～な」等による着地型観光の推進	【観光課】	【観光課】			継続	・2020年度、歴史サイクリング体験を掲載。 ・2021年度、体験プログラムを巡るサイクル体験を掲載。 ・2022年度、家康サイクリング体験を掲載。	・参加者数が他のプログラムに比べて多くない。	(再掲) ・魅力あるサイクリング体験等を造成し、継続掲載。
	・着地型観光・滞在型観光の開発、PR	【企画課】サイクルガイドの育成とサイクリングプランの具体化の検討	【観光ビューロー】 【地域DMO】	・(継続) 「たはら巡り～な」等による着地型観光の推進	・自転車体験型メニューの創出〔2021年度〕	継続	・検討	・サイクルガイドができる事業者が育っていない。 ・旅行事業者によるサイクリングプランが具体化しない。	・サイクリングガイドの育成を図り、ビジネスモデルの構築を支援する。 ・旅行事業者へのサイクリングプランのプロモーションを図り、旅行プランの具体化、継続化をおこなう。 ・市政20周年事業を活用し、新たな自転車活用事業を支援。(例：バイクロゲイニング) ※企画課
③ サイクリストへの満足度向上									
(視点) サイクリストの満足度向上 ・観光資源の他、おもてなし等により満足度の向上を図り、リピータ率の向上					・講演会を開催〔2020 年度〕	継続	・観光まちづくり実践塾を毎年開催し、サイクリングを含めた着地型体験メニュー等についてのワークショップを開催。	満足度の向上を図り、リピータ率の向上を図る手段の検討が必要。	・2023年度、アイアンマン70.3東三河ジャパンin渥美半島でサイクリストによる講演会の実施 ・観光まちづくり実践塾を継続開催。
	(視点) 関係人口増加、定住化 ・本地域の魅力を伝えることなどにより、関係人口増加、定住化の促進を図る	【観光課】 「たはら巡り～な」等による着地型観光の推進講演会等による啓発活動	【観光課】 【観光ビューロー】 【地域DMO】	・(継続) 「たはら巡り～な」等による着地型観光の推進、講演会等による啓発活動 ・(新規) サイクリスト同士を繋ぐ仕組みづくり、サイクリストご意見箱の設置、機運醸成のための講演会等の開催、啓発活動	・サイクリストを繋ぐ手段提案〔2020年度〕	継続	(再掲) 充実化のため、たはら巡り～なを活用して渥美半島サイクリングルートのサブルートを設定。 ・2020年度、歴史サイクリング体験を掲載。 ・2021年度、体験プログラムを巡るサイクル体験を掲載。 ・2022年度、家康サイクリング体験を掲載。	・参加者数が他のプログラムに比べて多くない。	(再掲) ・2023年度、「塩の道」を活用した研修会等に職員が参加。 (再掲) ・魅力あるサイクリング体験等を造成し、継続掲載。 (再掲) ・市政20周年事業を活用し、新たな自転車活用事業を支援。(例：バイクロゲイニング) ※企画課